

自己評価

生徒指導部教育目標	信頼と愛情を基盤とした共感的な生徒理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる。	
評価する領域・分野	「生徒指導・教育相談・人権教育」「特別活動（生徒会・委員会・MSL活動）」「部活動」	
現状及びアンケートの結果分析等	▼「家庭との連携11」「独自項目30」の情報提供や広報に関する項目では“あてはまる”が70%近くあり、生徒指導だより等の配布物もその手段の一つとして貢献できたと考える。▼「教職員16・17」の教職員の愛情や熱心さに関する項目では“あてはまる”が75～90%あり、“信頼と愛情”ある生徒指導が評価されたと考える。▼一方「その他24・25」の体罰やいじめに対する厳しい対応に関する項目では“あてはまらない”が10%ある点は、生徒指導の取組が正確に評価されるよう、評価者に伝えなければならないと考える。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	「生徒指導」規範意識の向上、問題行動や事故等の未然防止、組織的に対応する。「教育相談・人権教育」SCとの連携と相談体制の構築。互いを認め合う人間関係づくり。「生徒会活動等」生徒による生徒のための生徒会活動の活発化で自己有用感を高める。「部活動」校外での活動を発表の場とし、出品や演奏、大会出場など積極的に支援する。	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動等の初期対応時に、HR担任を支援するような生徒への働きかけ工夫をする。</li> <li>いじめに対して、ホームルーム担任と連携して未然防止と早期発見に努める。</li> <li>学年集団を中心に生徒指導部が的確な援助をする</li> </ul>	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動のきっかけになる兆候を見逃さず、各担当が連携して積極的な生徒指導を行う。</li> <li>時節や生徒の傾向に合わせて集会を開いたり、生徒指導だよりを発行したりする。</li> <li>自己存在感、自己有用感をもたせる生徒の自発的で主体的な活動を仕掛ける。</li> </ul>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動等に、担任と生徒指導部が連携し、共通理解を図って組織的に対応できたか。</li> <li>生徒の自発的な活動が活発に行われるようになったか。</li> <li>生徒指導事案、情報モラル違反事案、事故等が軽減あるいは減少したか。</li> </ul>	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動事案に対する関係諸機関との連携と、ホームルーム担任への日常的なサポート。</li> <li>交通安全や薬物乱用防止等、警察と連携した啓発活動、生徒の自発的な活動の実施。</li> <li>生徒指導上の身近な話題や啓発に係わる情報提供として、生徒指導だよりを発行。</li> <li>いじめ基本方針の策定、改定。PDCAサイクルにもとづいた取組。</li> <li>生徒のニーズに合わせたSCやスペシャル・サポート派遣事業の活用と教育相談活動。</li> <li>互いを認め合う活動を通じた人権啓発活動の実施。</li> </ul>	
評価の視点	評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動等に、担任と生徒指導部が連携し、共通理解を図って組織的に対応できたか。</li> <li>生徒の自発的な活動が活発に行われるようになったか。</li> <li>生徒指導事案、情報モラル違反事案、事故等が軽減あるいは減少したか。</li> </ul>	<p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p><input checked="" type="radio"/> A B C D</p> <p>A B <input checked="" type="radio"/> D</p>	
成果・課題	総合評価	
<p>○問題行動等に、HR担任と連携して臨機応変に対応でき、その都度適切な対応ができた。</p> <p>○主体的な生徒会活動等が増え、生徒自身が考えた適切な判断でトラブルの回避ができつつある。</p> <p>▲適切で熱心な生徒指導で生徒は落ち着いて来てはいるが、LINEが介在したトラブルが減らない。</p>	A <input checked="" type="radio"/> B C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラーとの連携や、スペシャル・サポート派遣事業を有効活用する。</li> <li>規範意識を高めるための生徒主体の取組を工夫する。</li> <li>情報モラル講話を年に数回できるようにするとともに、保護者向けの講話も開催する。</li> <li>保健安全部と協力して“性と生の教育”を行う。</li> <li>相談日等を設定して、教育相談が気軽にできる環境を整え、保健室と連携する。</li> <li>コミュニティ・スクール制度を活用し、地域と共働できる生徒の活動を通して相互の理解を深め、生徒の自己存在感や自己有用感を高める。</li> </ul>	

学校関係者評価 (平成30年3月7日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの結果から、学校生活において消極的な生徒がいると感じられる。</li> </ul>
-----------	---